

講義名	子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考える	講座担当者	鎌田美千子(宇都宮大学)
単位数	6	講義形式	講義、ワークショップ
実施日時	2019年9月22日(日) 10:30~16:10	実施会場	郡山市中央公民館 ZOOMによる同時受講可
講座の目標及び特に目指す受講者の知識・技能・態度			
<p>講座の目標 子どもの言語能力の発達、文章理解プロセスをふまえて子どもが理解しやすい言い換え・書き換えを考 えることができるようになる。</p> <p>特に目指す受講者の知識・技能・態度</p> <p>知識 ② 子どもの言語習得や言語運用の特性に関し基礎的な知識をもっている。 ③ 子どもの言語学習支援の方法や、教科等の学習と日本語指導を関連付けることの重要性につ いて理解している。</p> <p>技能 ④ 自身の支援を振り返り、改善しようと試みる。</p> <p>態度 ① 子どもたちが、将来どのように社会の一員として生活するのかをイメージして、日本語学習支援 の内容や方法を考えて実践しようとする。</p> <p>※①②③④は、本研修で設定した養成を目指す「資質・能力」の番号である。「自己評価シート」参照</p>			
講座内容			
<p>1 子どもは、どのようにして読めるようになっていくのか (1)「読み」の発達 (2)就学後の言語能力の発達 (3)話しことばと書きことば</p> <p>2 単語と文法がわかれば読めるのか—認知心理学の視点から— (1)文章を理解するプロセス (2)スキーマとスクリプト</p> <p>3 もとの表現を言い換えるだけでよいのか (1)文章を通した理解に向けて (2)パラフレーズにあたっての留意点 (3)ワークショップ①(2種類のリライトの比較検討) (4)ワークショップ②(リライトの作成と改善)</p> <p>4 発達段階における「ことば」の役割</p> <p>5 学びの共有(受講者から一人一言)</p>			
成績評価方法			
<p>講義への出席後または録画による講義の視聴後、課題を提出する。 他の講義と併せて、80%の出席と課題の達成度60%で修了証を授与する。 〔課題〕 理科教科書のコラム欄から、日本での生活経験を前提とした記述を探して、リライトすること。</p>			
参考書			
<p>○ 庵功雄(2016)『やさしい日本語—多文化共生社会へ—』岩波書店</p> <p>○ 鎌田美千子(2018)「教科書の文章とパラフレーズ—日常語・抽象語・背景知識・主体的な学び—」宇都 宮大学国際学部編『多文化共生をどう捉えるか』下野新聞社, 165-169.</p> <p>○ 鎌田美千子・仁科浩美(2014)『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワ ーク</p> <p>○ 鎌田美千子(2016)「日本語を第二言語とする子どもたちのためのリライト教材作成に関する方法的検 討—日常会話レベルから教科書レベルへの橋渡し—」『宇都宮大学留学生教育研究論集』7, 3-10. http://hdl.handle.net/10241/00010445</p>			

- 鎌田美千子(2019)「指導段階および教科に応じた教科書リライトの方法論的検討」『宇都宮大学国際学部研究論集』47号,33-39. <http://hdl.handle.net/10241/00011847>
- 光元聰江・岡本淑明(2016)『外国人・特別支援 児童・生徒を教えるためのリライト教材』ふくろう出版